



H30スローガン
「協働」



平成30年12月18日(水)
発行所: 中部教育事務所



日本の
ひなた
宮崎県

県民総ぐるみ教育推進研修会

「県民総ぐるみ教育推進研修会」のねらいは？

A I ・新たな職業の出現、地域のつながりの希薄化等の社会の急激な変化や、不登校や児童虐待、子育ての多様化等の学校を取り巻く環境の変化から学校・家庭だけで子どもを育てていくのは難しい時代になってきているのではないかと指摘があります。また、高校生の県内就職率の低迷等から宮崎で育った子どもたちが宮崎で暮らすことに魅力を感じていないのではないかと指摘があります。これらのことから、学校・家庭・地域や企業・市民団体等が一体となって取り組む教育推進体制の強化が必要であると考えています。

そのために、「よのなか教室」の実施拡充をとおして、子どもたちに自分の生き方を見つめさせながら、学ぶ意欲の向上やふるさとを愛する心の醸成を図ることを本事業のゴールと設定しています。県内各地区で下記の研修会を実施しています。

「よのなか教室」とは？

地域人材を活用しながら、自分の生き方考えさせたり、職業観や社会観等を育成したりする授業のことで。



「H30県民総ぐるみ教育推進研修会」

宮崎地区(11月29日)
映像による授業公開(宮崎西中)
実践発表(住吉南小・宮崎北高校)

南那珂地区(11月28日)
授業公開(串間中)
実践発表(北方小・福島高校)

児湯地区(12月14日)
授業公開(高鍋東中)
実践発表(富田小・高鍋高校)

【パネルディスカッションにおける話題】

「よのなか教室」を行う上で望まれるネットワークの在り方

「よのなか教室」を行うことで子どもたちにとってどんなよさがあるのか

「よのなか教室」を行うことで企業にとってどんなよさがあるのか

「よのなか教室」を充実させる上で大切なこと

「よのなか教室」の実施に向けた今後の取組

出てきた意見

- 産官学の連携
- 様々な団体とつながりをもつ
- 実践後のつながりをもつ関わり方
- コーディネーターが依頼目的を理解した上でつなぐ

- 地域のよさを知る場となる
- 仕事の大切さ生きがいなどを知る場となる
- 伝える力が向上する
- 進路選択の大きな材料となる
- 働くときに大切なことを学ぶ

- 企業のよさ、頑張っている企業を知ってもらうきっかけになる
- 未来への投資につながる
- 社員の意識改革、人材育成につながる
- 自らの企業を客観的に捉える機会となる

- 学習の系統性
- 橋渡し
- 事前の打合せ
- つながりを大切にすること
- 年間計画をみんなでつくる

- 調べたこと・考えたことを提案する場を設定する
- 人材リストの作成
- 行政がコーディネートする
- 体験活動の継続とコーディネート

参加者から寄せられた「よのなか教室」実施に向けて取り組みたいこと！

- 小・中・高校の連携
- 地域コーディネーターとの連携
- 教員が地域を知ること
- 地域とつなげる校務分掌の設置
- アシスト企業の職員への周知
- 実践を継続し伝統にすること
- 地域の方を招いた授業の実践
- 教師の職業観を明確にすること
- 地域を自慢に思う学習の構築
- 多種多様な大人に触れる機会の設定等



県民総ぐるみ教育推進研修会の様子

どんな「よのなか教室」の例があるの？



- ～既存の取組を生かす発想で よのなか先生とQAのキャッチボールを～
- 小学校：①1/2成人式で職業人から保護者とともに学ぶ機会を ②修学旅行先で職業人への取材活動を ③遠足を複数の職場見学に ④PTAバザーで値付けや高い体験を
- 中学校：①職場体験の受入先の方々を招いた事前指導を ②テーマ(働くとは何か、各事業所への中学生としての提案等)をもたせた職場体験を ③体験からの学びを交流するような場の設定を
- 高校：①地方自治体や産業界と連携した地域課題解決型の探究学習を

「よのなか教室」の実践をすべての学校で！！